

基本目標1 子どもを生子・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現

重要業績評価指標（KPI）の進ちょく状況

指標	基準値	現状	数値目標	指標	基準値	現状	数値目標
保育所待機児童数	20人	25人	0人	「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率	平均を下回っている	平均を下回っている	平均を上回る
	平成27年4月	平成28年4月	平成32年4月		平成27年	平成28年	平成31年
学童保育所待機児童数	194人	223人	0人	生涯学習講座・教室受講者数	7,092人	6,369人	8,100人
	平成27年4月	平成28年4月	平成32年4月		平成26年度	平成27年度	平成31年度
合計特殊出生率	1.27	1.18	1.32				
	平成26年	平成27年	平成31年				

① 安心して子どもを生子・育てられる環境の整備

・ 出産・子育て情報提供事業

平成28年度から開始した妊娠期における「育児パッケージ」贈呈の機会を活用し、保健師等による面接を実施することにより、子育てに関する不安や心身の不調の早期発見、未然防止へと繋げる。

・ 子育て支援事業

公共交通機関を利用して公立小学校に通学する児童を持つ家庭に対し、平成27年度から通学費の補助制度を開始した。平成29年度から対象を中学生に拡大し、支援の充実を図る。

・ 学童保育事業

増加傾向にある学童保育所の待機児童解消策として、平成28年度は、大門地区に新設、民間学童保育所の設置を促進した。平成29年度は、今井小学校学童の定員増を図る。

・ 放課後子ども教室事業

放課後の子どもの居場所として、全小学校での実施に向けて準備を進めており、平成29年度には2校(計13校)で開始する。

② 青梅ならではの教育環境の充実

・ 学力向上事業

平成28年度、全地区に設置した「青梅サタデースクール」により、基礎的・基本的な知識を土曜日を活用して身に付ける機会を創出し、児童・生徒の学力の定着・向上を図る。

・ 安全・安心な学校づくり推進事業

平成28年度から平成30年度までの3か年で、小学校通学路への防犯カメラの設置を進めるとともに、校内の防犯カメラを更新し、児童生徒の安全を確保する。

政策パッケージ1

おうめ版ネウボラ事業(資料2)

基本目標2 青梅に暮らし、働き、訪れる人々にとって魅力あふれるまちを創出

重要業績評価指標（KPI）の進ちょく状況

指標	基準値	現状	数値目標	指標	基準値	現状	数値目標
企業誘致条例を活用した誘致企業数(累計)	3件	3件	6件	青梅市の認知度	95.1%	95.1%	100%
	平成27年4月	平成28年4月	平成32年4月		平成27年度	平成27年度	平成32年度
民営従業者数(経済センサス)	52,370人	52,370人	53,000人	転入超過率	△1.2242	2.2414	0以上
	平成24年	平成24年	平成30年		平成26年	平成27年	平成31年
青梅市駅周辺の歩行者交通量	18,999人	18,999人	20,000人	空家の活用事例数(累計)	1件	1件	10件
	平成24年度	平成24年度	平成32年度		平成26年度	平成27年度	平成31年度

① 農・林・商・工業の活性化

・ 梅の里再生事業・緊急防除対策事業

平成28年10月、一定の条件のもと梅郷全域、和田町全域に再植栽を認める国の判断がなされた。これに伴い、梅の公園等において再植栽を開始する。

再植栽を進めるとともに、新たな感染を起こさないため、強化対策を継続する。

・ 商店街空き店舗活用事業

空き店舗を活用して事業を開始する創業者に対し施設改修費を支援する。平成28年度に国の交付金を活用し、支援対象を拡大した。

・ 女性の再就職・若年者就職アシスト事業

生産年齢人口が減少していく中、地域経済を支える人材として女性・若者のスキルアップから就職マッチングまでを一体的に支援する。

② 魅力あふれる地域資源を生かした情報発信力の強化

・ おうめ！観光戦略創造プロジェクト

市内観光関係、交通機関、市内事業者等との連携強化を図り、新たな観光客誘致に向けた具体策の検討を進め、事業化を実現。また、戦略的広報展開を推進する。

・ 地域の魅力発信事業

全国的に活発化しているふるさと納税の取組の充実により、財源の確保を図るとともに、青梅市の魅力を発信する契機とする。また、オリジナルグッズを活用したPRの充実を図る。

③ 青梅で暮らしてみたい！を実現できる住宅環境の整備

・ 空家対策事業・空家バンク事業

特定の地区で試行的に実施した空家バンクを、全市展開するとともに、空家を地域活動や地域住民の交流を目的とした拠点として活用する場合の改修費を支援する。

基本目標 3 将来を見据えた、安全・安心なまちづくりを推進

重要業績評価指標（KPI）の進ちょく状況

指標	基準値	現状	数値目標
JR青梅線利用者数 (河辺駅、東青梅駅、 青梅駅の乗客数)	26,984人	27,111人	26,900人
	平成26年度	平成27年度	平成31年度

指標	基準値	現状	数値目標
自治会加入率	45%	44%	45%以上
	平成27年度	平成28年度	平成31年度
交流・連携を目的と した自治体との協定数	10	10	11以上
	平成27年度	平成27年度	平成31年度

① 時代に合った都市機能の充実

・ 公共交通基本計画の推進

今井地区においてサイクルアンドバスライドによる利便性向上を図るなど、事業交通不便地域、交通空白地域等、様々な課題に対し、関係者との協議や調整を通じて解消策を講じる。

・ 新生涯学習施設（仮称）整備事業

青梅市民会館跡地に新生涯学習施設の整備を進め、青梅市民センターや釜の淵市民館など各施設に分散していた機能を統合する。

・ 日本ケミコン跡地の利活用（新市民ホール建設構想事業）

東青梅1丁目諸事業用地について、時代に合った機能の複合化・集約化など多面的な利活用・運営方策について、検討を開始する。

・ 公共施設等マネジメント事業

（公共建築物保全整備事業と公共施設再編・再配置事業を統合）

公共建築物等管理計画（平成28年度末策定）にもとづき、厳しい財政見通しを前提に、将来のまちづくりを見据え公共施設等の最適な配置に向けて、総合的、計画的に推進する。

② 地域内・地域間の連携促進

・ 自治会加入促進事業

防犯、防火防災、環境美化等の地域の課題に取り組み、地域コミュニティの形成を図る自治会連合会と、平成29年1月に、連携基本協定を締結し協働による取組をさらに推進する。

・ ホストタウンの推進・オリパラ機運醸成事業

平成28年6月にドイツ連邦共和国のホストタウンとして登録された。これを契機とし、文化・スポーツの振興、地域の活性化等、グローバルの観点で幅広く展開する。

政策パッケージ 3

おうめ版多世代交流センター事業（資料 3）